



開催日 1日目／2017年11月25日(土) 12:30～17:50(18:15～20:00 交流会)
2日目／2017年11月26日(日) 09:30～12:45

会場 関西看護医療大学 (〒656-2131 兵庫県淡路市志筑1456-4)

定員 1日目分科会／700人 交流会／150人 2日目全体会／300人

参加費 1日目 3,500円 2日目 2,000円 2日間 5,500円 交流会参加費 3,500円

締切 2017年11月2日(木)

対象 自治会・町内会など地域組織のリーダー、民生児童委員や福祉委員、各種ボランティア、NPO、高齢者・障がい・児童福祉関係職員、商工業者、農協・生協・社協、自治体関係者ほか、関心のある方

「第5回 町内・集落福祉全国サミットin淡路市」実行委員会

事務局 特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F
TEL:022-727-8730 FAX:022-727-8737 E-mail:clc@clc-japan.com
営業時間:土日祝を除く平日9:00～18:00

お問い合わせ先

〈ご注意〉
・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
・この用紙による、払込料金は、ご依頼人様が負担することとなります。
・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙

3万円以上
貼付

印

この場所には、何も記載しないでください。

あかはねちゃん
©兵庫県共同募金会

「第5回町内・集落福祉全国サミットin淡路市」は赤い羽根共同募金の助成を受けて実施します。

in
淡路市

第5回 町内・集落福祉全国サミット

日本の地方では、急速な人口減少や少子高齢化が進んでいます。また、過疎化やそれに伴う家族形態の変化も相まって、集落機能の維持に影響を及ぼす課題となっています。

しかし、一方で集落の文化や伝統を時代に合わせて守り、維持していくために、集落で協議を重ねながら、持続可能な仕組みに変換する、そこで暮らす人々の創意工夫や連帯に溢れた実践があります。このサミットはそんな実践に学び、住民の主体による「やる気」と「元気」を全国に発信することを目的に開催いたします。

「地域は家族だ！」
⑧ 地参地笑のススメ



開催日 2017年11月25日(土)・26日(日)

会場 関西看護医療大学 (〒656-2131 兵庫県淡路市志筑1456-4)

◎参加にあたって配慮が必要な方は、恐れ入りますが事前にご連絡ください。

〈主催〉第5回町内・集落福祉全国サミットin淡路市実行委員会 〈共催〉淡路市、淡路市社会福祉協議会
〈主管〉全国コミュニティライフサポートセンター(CLC) 〈協力〉兵庫県社会福祉協議会

兵庫県内で展開中の「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン協賛事業



11月25日(土) ● 1日目(全体会・分科会)の日程

11:30~12:30	受 付
12:30~12:40	開 会 名誉実行委員長(淡路市長)門 康彦
12:40~13:45 (65分)	<div>基調対談</div> <div>共生社会の実現に向けた『循環』をめざして</div> <div>淡路市社会福祉協議会がめざす「共生社会」「地域循環」の具体化に向けた取り組みとは？ 「集落福祉」がめざす地域像とは？今後の地域づくりのあり方を対談と講話を通して参加者全員で共有します。</div> <div>関西学院大学 人間福祉学部 教授 藤井 博志 淡路市社会福祉協議会 会長 小南 廣之</div>
13:45~14:00	休 憩
14:00~15:25 (85分)	<div>淡路市の「集落活動」実践報告</div> <div>小規模過疎集落の挑戦!!『集落を家族に…』</div> <div>淡路市佐野地区興隆寺町内会は、高齢化が深刻な約30世帯の山間集落です。伝統的に行われる町内会の常会を通じた情報共有や、住民相互の生活支援に加え、集落では、過疎地有償運送や都市間交流などが積極的に進められています。全国の小規模集落が抱える課題解決のためのヒントがここにはあります。</div> <div>●パネラー NPO法人兵庫ふるさと創成センター(淡路市) 理事長 藤岡 淳二</div> <div>●サポーター 柳谷自治公民館(鹿児島県鹿屋市) 館 長 豊重 哲郎 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部 内閣参事官 尾田 進 総務省地域力創造グループ過疎対策室 室 長 門前 浩司 厚生労働省社会・援護局生活困窮者自立支援室 室 長 本後 健 農林水産省 林野庁企画課 課 長 山口 靖</div> <div>●コーディネーター 日本福祉大学 社会福祉学部 教 授 平野 隆之</div>
15:25~15:35	次年度開催予告 熊本県山都町の皆さん
15:35~15:50	休 憩・移 動
15:50~17:50 (120分)	分 科 会 1~6
18:15~20:00	交流会 淡路島“地産地消”のおもてなし



分科会1

この人に聞く!!大規模災害からの復興の地域づくり

誰もが予期して予期しないのが災害。大きな災害を経験したからこそ気づけたこともたくさんあります。“災害からの復興を地域づくりに活かす”そんな「おもい」に迫ります。

●パネラー

室津地区社会福祉協議会(淡路市) 前会長 桂 孝弘
下矢部西部地区社会福祉協議会(熊本県山都町) 前会長 津川 則光
面瀬地区社会福祉協議会(宮城県気仙沼市) 会 長 佐藤 輝子
面瀬地区民生委員児童委員協議会(宮城県気仙沼市) 会 長 熊谷 涼美枝

●サポーター

全国社会福祉協議会 常務理事 渋谷 篤男

●コーディネーター

宝塚市社会福祉協議会 常務理事 佐藤 寿一

室津地区社会福祉協議会
(淡路市)

阪神・淡路大震災の翌年、地区内で会食会を開始したことを皮切りに、市町合併・小学校統合等により危機される地域課題を、役員会を通じて話し合い地区社協の活動に位置付けてきた。地区の全団体が参加協力する「みんなの夏まつり」は9回を数える。



下矢部西部地区社会福祉協議会
(熊本県山都町)


熊本県山都町の旧矢部町の西にあり、過疎化と高齢化が進んでいる。町村合併後に前後して小中学校や農協も統廃合され、地域の担い手が減少し労働力不足で活力の低下が危惧されているが、地域の資源を活かした生活を営んでいる。



面瀬地区社会福祉協議会
(宮城県気仙沼市)

東日本大震災直後の避難所運営では、地域内の多世代交流や持ち寄りを意識した運営を行ってきた。現在では、ふれあい農園などの活動により、地区外からの転入者も巻き込んだ交流を積極的に行うなど、復興のまちづくりを進めている。





分科会2

集落を時代に合わせて維持する

私たちのライフスタイルの変化は、集落にも大きな変化をもたらしています。時代や状況に合わせ少しずつ変化する地域。その変化に合わせた地域のありようを模索する「おもい」や実現する「決意」に迫ります。

●パネラー

畠田在町内会(淡路市) 会 長 岸下 常雄
一般社団法人神楽自治振興会(兵庫県丹波市) 理事長 足立 徳行
柳谷自治公民館(鹿児島県鹿屋市) 館 長 豊重 哲郎

●サポーター

総務省地域力創造グループ過疎対策室 室 長 門前 浩司

●コーディネーター

関西学院大学 人間福祉学部 教 授 藤井 博志


畠田在町内会
(淡路市)

人口減少・少子過疎化が進む淡路島において、人口が増え続けている畠田在町内会。現在の世帯数は700にも及ぶ。新たな住宅が建設されるたびに町内会入会の勧誘を行うなど、巨大な町内会をまとめるリーダーの葛藤や熱いおもいに迫る。



一般社団法人神楽自治振興会
(兵庫県丹波市)

少子高齢化が急速に進み、農地山林の維持や集落の運営にも支障をきたしつつある状況のなか、地区を挙げて都市と農村の交流事業や移住促進に取り組んでいる。Iターンを進めるためには、「神楽に暮らす人が神楽を好きにならないと」という考えのもと、生態系や景観の保全など魅力ある地域づくりにも幅広く取り組んでいる。



柳谷自治公民館
(鹿児島県鹿屋市)

通称「やねだん」と言われている柳谷集落。めざしたのは「行政に頼らない地域再生」。集落総参加で労力や経験を提供し合い、土着菌を使った土づくりやオリジナル焼酎づくりなど、独自の商品開発で自主財源を増やしたほか、住民の工夫で福祉や教育も自ら充実させている。集落全戸にボーナスを出したこともある。

分科会3

子どもは集落のかすがい

少子化が叫ばれる近年。過疎化が深刻な集落で、集落のにぎわいづくりと、子どもたちの自尊感情をはぐくむ取り組みとは？集落の大人たちのおもいを語ります。

●パネラー

室津小学校元PTA会長有志の会(淡路市)
小代区貫田地区(兵庫県香美町)
みんなの居場所シエスタ(島根県吉賀町)

片岡 伸介
小林 良斉
長谷川 友紀

●サポーター

全国コミュニティライフサポートセンター 理事長 池田 昌弘

●コーディネーター

佛教大学 福祉教育開発センター 講師 金田 喜弘

室津小学校元PTA会長有志の会 (淡路市)

「地域と共に子どもに夢と感動を」を合言葉に、同世代の4人のPTA会長が中心になり、かつては人でにぎわった村祭りに子どもを呼び戻した。地域の先輩のおもいに触れ、自分たちが住み続けたいと思う地域像を描く次世代の取り組み。



小代区貫田地区 (兵庫県香美町)

日本の棚田100選にも選ばれている貫田地区のうへ山棚田。所有者の高齢化で手つかずの田んぼを守ろうと、地元の仲間が立ち上がり、「俺たちの武勇田」として田んぼの再生に取り組む。地元の子どもたちや都市部の学生など、子どもや若者の力も加わって、美しい景観と地域の誇りが引き継がれている。



みんなの居場所シエスタ (島根県吉賀町)

手しごと・創作活動・おしゃべり・読書など、子どもからお年寄りまで自分の好きなものを持ち寄り、日常的に多世代交流できる広場。子どもを真ん中にして、親や家族・子育てを応援したい人たちがみんながつながり合っている。



分科会4

「生涯現役」集落内での仕事を創造する!!

集落では誰もが「生涯現役」。農業・拠点活用・コミュニティケアなど、集落の状況や集う人々に合わせ、状況に柔軟に対応する小規模過疎集落の無限で多様な可能性を探ります。

●パネラー

楽農倶楽部(淡路市)
くもべまちづくり協議会(兵庫県篠山市)
NPO法人あんじゃネット大鹿(長野県大鹿村)

児島 良和
会長 梶谷 郁雄
土屋 道子

●サポーター

農林水産省 林野庁企画課 課長 山口 靖

●コーディネーター

日本福祉大学 社会福祉学部 教授 平野 隆之

楽農倶楽部 (淡路市)

有志5人による退職後の“楽しむ農業”。農作物の共同栽培、直売所の運営だけでなく、耕作放棄地を活用した都市間交流や農業体験等集落の変化に合わせながら、「自分たちの農地を守る」さまざまな活動を行っている。



くもべまちづくり協議会 (兵庫県篠山市)

雲部小学校の閉校に伴い、空き校舎を活用しようと一念発起。活動の継続性を考え、地域住民の出資により合同会社を設立。住民の憩いの場となっているコミュニティカフェは、都市部の観光客にも人気のスポットとなっており、生まれ変わった校舎と雲部の地域のにぎわいが戻ってきている。



NPO法人あんじゃネット大鹿 (長野県大鹿村)

暮らしのちょっとした困りごとなどを気兼ねなく有償で支え合い活動を行う「便利屋こまわりさん」など、過疎・高齢化が進む村で安心して暮らし続けるために活動を行うにあたって多くのIターンの方が関わっている。



分科会5

地域の宝箱をめざす「住民の拠点開発」

自由な発想で住民が創る地域の拠点には、集落に暮らす人のおもいや連帯が詰まった実践が盛りだくさん。すべての住民が参加できる拠点運営のあり方を参加者と一緒に考えてみます。

●パネラー

山田地区まちづくり協議会(淡路市) 会長 大田原 正直
つながりボランティアグループほっとほっと(淡路市) 代表 中田 嘉代子
小坂区「なかや」(兵庫県豊岡市) 鍋座会 道下 岩夫
小坂区「なかや」(兵庫県豊岡市) 前区長 田口 保
森の巣箱(高知県津野町) 代表 大崎 登

●サポーター

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部 内閣参事官 尾田 進

●コーディネーター

仙台白百合女子大学 人間学部 准教授 志水 田鶴子

山田まちづくり協議会(淡路市)

保育所跡地の活用や地域の課題について、協議を経て誕生した「ごきげん荘」。毎週開催される集落カフェや、住民相互の自由な発想による学び合いや交流の場は、共生の地域支え合い活動につながっている。

つながりボランティアグループほっとほっと(淡路市)

井戸端会議からはじまるご近所同士のつながりを再び…。商店街内の店舗を活用した地域活動拠点「つながり」。地域の多様な担い手により、地域食堂・喫茶、手芸、男性サロン、朝市などを通じて、地域の見守りや支え合い活動を推進している。

小坂区「なかや」(兵庫県豊岡市)

20世帯余りが暮らす小坂地区の中心に、住民が力を合わせて茅葺き屋根の古民家を改修し地域拠点「なかや」を開設。「住民が楽しんで集うこと、食することは人をつなぐ」をモットーに、集落全員が家族のように集う「なかや」での交流が地域に元気とつながりを生み出している。

森の巣箱(高知県津野町)

廃校になった小学校を活用し、農村交流施設を住民が運営。都市間交流の実施、集落コンビニ、居酒屋(食堂)、宿泊施設の運営、地域の集会所を活用した高齢者によるしし唐の選果作業を通じて介護予防的な機能を果たす。防災マップを作成し、隣近所の見守りの仕組みをつくっている。

分科会6

体操がつむぐ「芋づる式まちづくりのススメ」

健康志向が高まる昨今。地域ぐるみで行われる健康体操がブームに…。この分科会では健康体操にとどまらない、見守りや支え合いに生活者目線の工夫に焦点をあてた取り組みを紹介します。

●パネラー

岩屋いきいき100歳体操(淡路市) 世話役代表 平松 勤志
下八木老人クラブちよっとたのまれ隊(兵庫県養父市) 代表 太田 豊
みはらさん家(福岡県久留米市) 三原 圭子

●サポーター

厚生労働省老健局振興課 課長補佐 谷内 一夫

●コーディネーター

関西学院大学 人間福祉学部 助教 橋川 健祐

岩屋いきいき100歳体操 (淡路市)

住民がお互いに協力し合いながら『いきいき100歳体操』に取り組み8年目を迎える。筋力アップだけでなく、日帰り旅行など住民同士が楽しむ工夫がなされ、体操による支え合いの深まりが岩屋地域全体に広がりはじめている。



下八木老人クラブ ちよっとたのまれ隊 (兵庫県養父市)

兵庫県養父市で広がりをを見せている「やぶからぼう体操」。先駆的に取り組んできた下八木老人クラブでは、現在、毎日2か所で体操を継続。体操がきっかけで、交流の機会も増え、会の活動も活発に。一人暮らし高齢者の声から月2回の買い物移送サービス「ちよっとたのまれ隊」を実施するほか、「いどばた喫茶」も開催している。



みはらさん家 (福岡県久留米市)

のどかな農村地域、高齢者も多い地域のなかで、自宅を使い、近所の高齢者の集いの場、障がいのある方の住まいの場をつくり、「向こう三軒両隣」をモットーに、地域でお互いに支え合うことを広げている。



11月26日(日) ● 2日目(全体会)の日程

9:00～9:30	受 付
9:30～9:35	開 会
9:35～10:30 (55分)	<div>鼎談</div> <div>地域力強化検討会報告書から</div> <div>厚生労働省社会・援護局生活困窮者自立支援室 室長 本後 健 関西学院大学 人間福祉学部 教授 藤井 博志 日本福祉大学 社会福祉学部 教授 平野 隆之</div>
10:30～11:30 (60分)	<div>徹底討論 1</div> <div>地域共生社会の実現に向けた実践</div> <div>「住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らし続けたい」 そう願うのは誰しも同じはず。 集落(地域)で暮らし続けるために必要なことは……。 暮しづらい状況を支える専門職と住民の関係は。 当事者の思いを住民はどう受け止めるのか。 ともに暮らし合うために必要な福祉の実践に迫ります。</div> <div>●パネラー NPO法人はなの家(兵庫県姫路市) 理事長 内海 正子 NPO法人にしはらたんぼぼハウス(熊本県西原村) 施設長 上村 加代子</div> <div>●サポーター 厚生労働省老健局振興課 課長補佐 谷内 一夫 全国社会福祉協議会 常務理事 渋谷 篤男</div> <div>●コーディネーター 日本福祉大学 社会福祉学部 教授 平野 隆之</div> <div>NPO法人はなの家(兵庫県姫路市) 2004年、住宅地のなかにある民家を改造した小規模で家庭的な施設で赤ちゃんからお年寄りまで、障がいの有無にかかわらず受け入れる共生ケアを兵庫県姫路市で開所。地域との結びつきをたいせつにした施設の運営を行っている。</div> <div>NPO法人にしはらたんぼぼハウス(熊本県西原村) 西原村にある就労支援事業所。技術指導を受けながら、農作物の生産と加工、販売を行う一方、地域の住民や子どもたちとつながりを持ち、障がい者のみならず、高齢者やホームレスなど、社会的孤立に陥ったさまざまな人の支援を行っている。</div>
11:30～11:45	休 憩
11:45～12:45 (60分)	<div>徹底討論 2</div> <div>共生循環型地域社会づくりの理念を問う ～地域でともに暮らし続けるとは～</div> <div>ともに暮らし合う地域社会とは？ 国の政策や制度は本当に共生社会の実現に向けた動きを加速させられるのか。 共生社会の実現に向け、必要な取り組みのための理念を、 障がい福祉の実践から熱く熱く語ります。</div> <div>●パネラー 淡路市社会福祉協議会(淡路市) 事務局次長 皿 保憲 西宮市社会福祉協議会(兵庫県西宮市) 常務理事 清水 明彦</div> <div>●サポーター 厚生労働省社会・援護局生活困窮者自立支援室 室 長 本後 健 全国社会福祉協議会 常務理事 渋谷 篤男</div> <div>●コーディネーター 関西学院大学 人間福祉学部 教 授 藤井 博志</div>
12:45～	閉会あいさつ 実行委員会企画運営部会 部会長 松田 和義

11月26日(日) ● 現地視察コース

注:【※】印は食事代等の実費負担を伴う内容が含まれています。

9:00～9:30 受付
9:30～9:35 オリエンテーション
9:35～12:30 現地視察(175分)

現地視察 1	【※】 そばカフェ生田村	2011年4月、休園していた保育所が、地元産の蕎麦粉を使った手打ちそばを食べることができる施設に変身。今では年間約1万人が来店するスポットに……。地域住民の協議と協働の積み重ねで完成した現在の形に至るまでの経緯や苦労に触れる機会です。もちろん、自慢のお蕎麦も食べることができます。
現地視察 2	道の駅あわじ	明石海峡大橋の開通とともにオープンした「道の駅あわじ」。年間を通じて多くの観光客で賑わう淡路市内屈指の施設。ここでの仕事は多種多様。施設内では高齢者の働く姿がソコソコで目につきます。その理由は……。？その効果は……。？高齢者が働きやすい工夫がいっぱい詰まった、地域の底ヂカラを見聞しませんか。
現地視察 3	【※】 五斗長宮農(垣内遺跡)	ほ場整備をきっかけに、弥生時代後期、国内最大規模の鉄器製造群落遺跡(垣内遺跡)が発掘された五斗長(ごっさ)町内会。その後の(株)五斗長宮農の取り組みは、地域内での仕事づくりや都市間交流を大きく加速させました。“地域ぐるみの遺跡活用×地域ぐるみの宮農=???”答えは如何に……!?
現地視察 4	【※】 地域生活多機能拠点 いづかしの杜～ さめきうどん ^{はびくる} 幸来	淡路市社会福祉協議会が運営する障がい福祉サービス事業所の見学。2008年に休園した保育所を活用し、集落コンビニ、弁当屋、移動販売、アイスクリーム製造販売等を行なう「いづかしの杜」の見学ののち、市の遊休施設を改修したさめきうどん店を見学します。障がいの有無に関係なく、すべての住民が「助けられたり、助けたり」する相互関係づくりを基盤にした実践に目と耳と舌で触れてみませんか。
現地視察 5	日本遺産認定施設を 巡るフィールドワーク	2016年4月に淡路島は、“古事記の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～」として日本遺産の認定を受けました。今回の現地視察では、淡路市内の構成文化財(全11)のなかから、伊弉諾神宮をはじめ、いくつかの施設を地元の住民がご案内します。

郵便局よりお願いいたします。

お振込は右記の用紙にて最寄りの

払込取扱票	
00	口座記号番号
0 2 2 3 0 1 1 3 6 5 7 8	金額 千 百 十 万 千 百 十 円
金 額	※
料 金	備考
加入者名	通信欄・ご依頼人
※	町内・集落福祉全国サミット in 淡路市
※	日 附 印
※	様
※	（ご連絡先電話番号 - - ）
裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行） これより下部には何も記入しないでください。	

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	0 2 2 3 0 1
加入者名	CLC 東日本
金額	千 百 十 万 千 百 十 円
※	おなまえ
ご依頼人	様
(消費税込)	日 附 印
料 金	円
備考	

この受領証は、大切に保管してください。